

## ○ 授業動画に係る指導及び助言

～宮崎市立小戸小学校4年 主題名：進んでみんなのために働く 教材名『ぼくの草取り体験』～

宮崎県教育庁南部教育事務所教育推進課 指導主事 川崎 優也

### 1 子どもが「考え」「議論する」ための指導方法の工夫について

#### 【導入の工夫】

- ・ 児童は事前に教材文と同じ体験をしており、その時の本音で書いたそれぞれのアンケート結果を示すことで、児童の気持ちを一瞬でつかみ、本時のめあてや教材、授業者がねらいとする価値への方向付けがなされていた。

#### 【教材提示の工夫】

- ・ 教科書を読むのではなく、挿絵を紙芝居のように示しながら教材を範読することで、全ての児童の注意を授業者の範読に向けていた。児童は教材の世界に同じ速度で浸るとともに、異なるページを読むことなく、終始集中力して授業に取り組んでいた。

#### 【ICT活用の工夫】

- ・ 思考ツールとして心情図を使用することで、自分の考えを指一本で容易に表すことができていた。ICTの利点でもある、端末上で考えを分類・整理する等、協働での活動が取り入れられており、児童一人一人が微妙な心情の度合いを表現することができていた。また、全員の考えをTV画面で一括して共有することで、自他の違いを一見して把握することができていた。

### 2 ねらいに関する児童（生徒）の姿について

- ・ 導入の段階で、自分たちの類似経験を想起させていたことと、「みんな進んで働いていた？」という教師の問いかけに全員が「はい」と答えた後に「マイナスの気持ちがあっても？」と切り返すことで、全ての児童が「言えるけど・・・、う～ん・・・。」と頭を悩ませていた。授業開始から5分の中で「進んで働く」という価値への方向付けができていた。
- ・ 心情図を使って自分の考えを表した後に、自由に席を離れて多くの他者と考えを交流していくことで、「あ～確かに」などという児童のつぶやきがあちこちから聞こえ、児童は多様な考えに触れ自己の考えを変容させていった。児童の中には、自然と草抜き以外の自分の実体験と結びつけて考え、自分事として捉えている姿も見られた。

### 3 指導及び助言

- ・ 教材文を起点とし、児童が「進んで働くとはどういうことだろうか」ということについて、自然と自分事として考えていた。道徳科の授業と日頃の児童の活動との関連について、授業者が全体を見通し、教育活動全体で道徳教育を捉えている成果だと感じた。
- ・ 児童の発言のやりとりの中には、「でもですよ」「あ～なるほど」など、他者の考えに対して反対の意見をしっかりと言えると同時に他者の考えを一度受け入れるという姿があった。日頃から、児童にとって教室が自分の考えをしっかりと言える「安心・安全な場所」となっており、道徳性が養われていると感じた。
- ・ 心情図を活用して、全ての児童の考えが分かるようにしているのは大変良い。一方で、多数の考えをもとに授業が進んでいたことがもったいないと感じた。少数の考えの根底にあるものに触れ、そこから自他の違いについてとらえさせていくと、より多面的・多角的な考えに練り上げられたのではないかと感じた。